



ソラミセ

半田市中心市街地 空き店舗利活用マップ



半田赤レンガ建物

この建物は明治の人々の眼をうるおした「カプトビール」の製造工場、国内屈指の規模を誇るレンガ建造物です。

新美南吉記念館

新美南吉の直筆原稿や書簡、童話集などを収蔵する記念文学館。「ごんぎつね」の舞台となった地に建てられています。



旧中基家住宅

明治44年に建てられた2階建ての洋館で、飾り窓やバルコニーが明治・大正浪漫を感じさせます。



半田運河沿いの蔵のある風景

運河に沿って建ち並ぶ黒板囲いの醸造蔵。江戸時代から明治にかけての文化が薫る、小粋でハイカラなスポットです。



半田運動公園

陸上競技場やテニスコートのほか、ちびっこ広場・芝生広場などを備えた敷地面積26.7haの公園で、多くの市民に親しまれています。

亀崎駅

明治19年に建立された亀崎駅の駅舎は、開業当時から残る「日本最古の現役駅舎」として、多くの鉄道関連の書物にも紹介されています。



矢勝川の彼岸花

矢勝川堤から望める小高い山は童話「ごんぎつね」の由来になった権現山。秋には数百万本の彼岸花が咲き誇り、全国からの観光客で賑わいます。



山車祭り

毎年3月下旬から5月3日・4日にかけて市内10地区で行われ、総勢31輛の山車が続々と登場します。5年に1度すべての山車が勢ぞろいし、大騒動を繰り広げます。

ソラミセのあるまち HANDA

半田市の特徴

半田市は、名古屋市の南、伊勢湾と三河湾に挟まれた知多半島のほぼ中央に位置しています。昭和12年に誕生し、平成20年の春には人口が12万人に達しました。古くから海運業、醸造業などで栄え、知多地域の政治・経済・文化の中心として発展してきました。



半田市には、自動車専用道路として知多半島の各都市をつなぐ知多半島道路と南知多道路、中部国際空港へつながる知多横断道路があり、半田中央ジャンクションにより接続しており、2つのインターチェンジ(半田中央IC・半田IC)があります。さらには、半田市の主要な道路として国道247号、国道366号の2路線、県道は名古屋半田線、半田常滑線、碧南半田常滑線(衣浦トンネル)、西尾知多線など13路線があり、周辺の都市と連絡しています。そして、重要港湾である衣浦港が市東部にあります。

また、半田税務署・名古屋法務局(半田支局)・名古屋地方検察庁(半田支部)・名古屋地方裁判所(半田支部)・愛知県知多総合庁舎・愛知県半田保健所・半田警察署などの国・県の施設や、知多半島の第3次救急医療施設である市立半田病院などの公共施設が集中しています。

半田市の象徴は、「山車」・「蔵」・「南吉」・「赤レンガ」です。山車祭りの歴史は古く、300余年の歴史があり、その伝統や文化を現在に受け継いでいます。春に曳き廻される山車は、精緻を極めた彫刻、華麗な刺繍幕、精巧なからくり人形などが備えられ、その壮観な姿は「はんだびと」の誇りです。なかでも「亀崎潮干祭の山車行事」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。また、5年に一度、各地区の山車31輛が勢揃いする「はんだ山車まつり」は50万人もの観客が訪れます。

半田運河沿いには、黒板囲いの醸造蔵が今も残っており、当時の風情を今へと伝える趣きのある町並みが形成されています。近年、運河を含む蔵の街エリアは、歴史ある建物や博物館がオープンし、回遊できる観光地として注目されています。

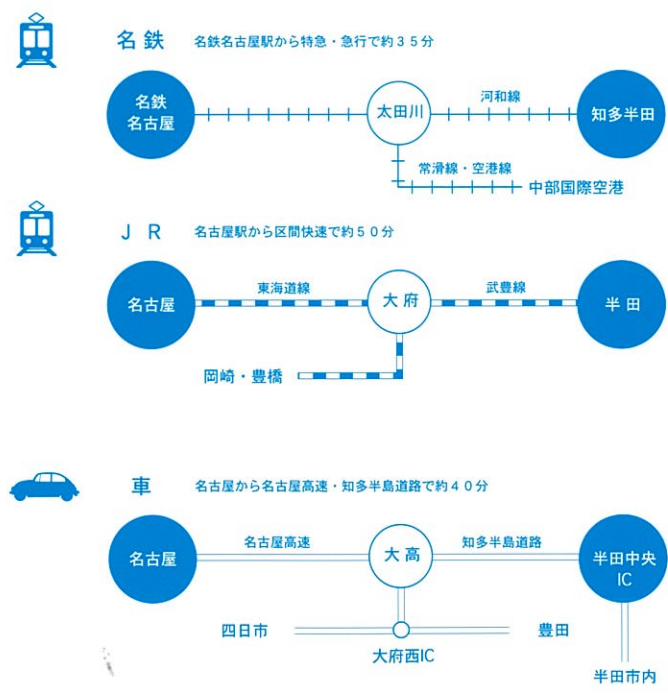
童話「ごんぎつね」の作者 新美南吉は、半田に生まれ育ち、郷土をこよなく愛した作家です。彼の描いた物語には、ふるさとの豊かな自然、その中で生きる人々の思いやりやさしさがあふれています。「ごんぎつね」に登場する矢勝川沿いの堤には、毎年300万本を超す彼岸花が咲き誇ります。

半田赤レンガ建物は、明治31年、丸三麦酒(株)のビール工場として建設された建物です。当時は、大都市の4大ビールメーカーがシェアのほとんどを占めていた時代で、地方都市からの果敢な挑戦に、半田の先人たちの心意気を感じられます。現存するレンガ造りの建物として日本最大級の規模を誇り、国の登録有形文化財に登録されています。平成27年7月に常時公開施設としてオープンしました。

半田市は、平成20年5月に景観行政団体となり、半田運河や矢勝川周辺の景観を保全し、山車まつりの文化や半田赤レンガ建物にふさわしい景観づくりなど、地域の特徴を活かした景観形成を推進する活気あふれたまちです。

詳細は半田市役所ホームページでご確認ください
URL : <http://www.city.handa.lg.jp>

半田市中心市街地までのアクセス



ソラミセを利活用して

名鉄 知多半田駅周辺

名鉄知多半田駅周辺は、市施行の土地区画整備事業により良好な市街地環境の整備がすすめられています。また周辺には、ビジネスホテルや各種診療施設、公園、駅前広場などの都市施設が整備されるとともに、飲食店を始めとした商業施設も数多くあり、利便性の高いエリアとなっています。

＼ 住む・食べる・買う が揃う新しいまち ／



知多の飲食が楽しめます



商業地と住宅地が
とても近くにありますが



車で訪れるのにも
便利です



ホテルが多くあります



活力あるまちを創造する

JR 半田駅周辺

JR半田駅周辺には半田運河や蔵のまちエリアがあり、歴史と文化を感じられる空間が広がっています。2015年にはミツカンミュージアムや旧中埜半六邸もオープンし、回遊できる観光エリアとして多くの方が訪れています。

また、近隣の商店や企業などの協力により、蔵のまちエリアでは、季節ごとに様々なイベントが開催されています。市役所などの都市機能も充実している恵まれた豊かなエリアです。

＼ 運河と歴史を感じる観光のまち ／



観光スポットと
隣り合わせのエリアです



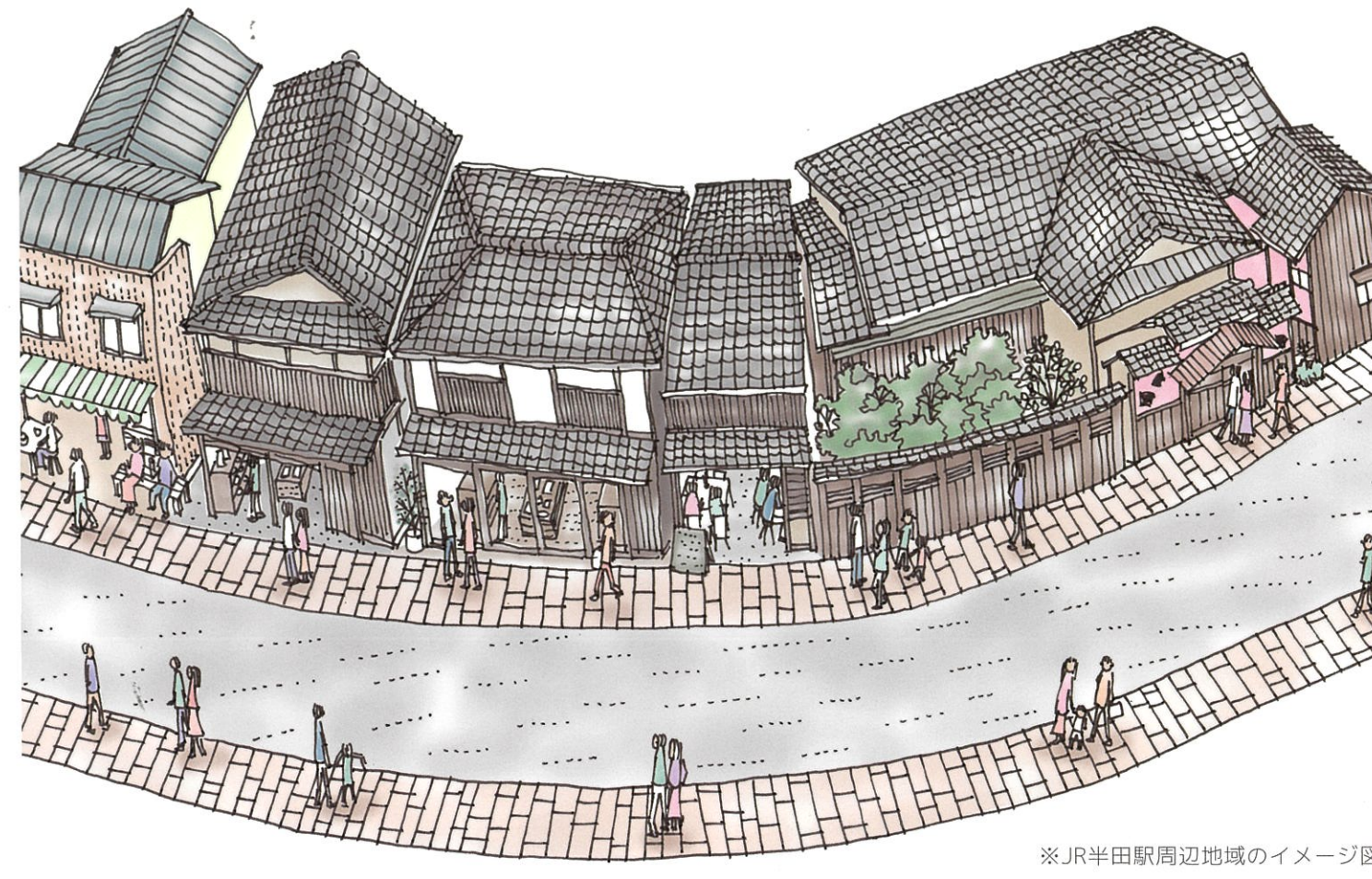
歴史を感じられる
町並みが続いています



訪れて、歩いて
楽しい町並みです



市役所
アイスラザ半田
公共施設が近くに
数多くあります



半田

中心市街地 ガイドマップ

Central City Area of Handa Guide Map



中心市街地の商店街

ランブリングタウン商店街

「半田ランブリングタウン」という名前は、ぶらぶら歩いて楽しめるの意味「ランブリング」を元に、平成11年につけられました。現在は飲食店、花屋、時計宝飾屋など45軒の加盟店が協力して、知多地域の玄関口として出会いと賑わいのまちづくりを進めています。

中町商店街

「半田中町商店街」は昭和42年に設立された、JR半田駅と名鉄知多半田駅の中心市街地の南部に位置する商店街です。50年近い歴史の中で、「地域の皆様と共に」をモットーに、地元へ愛される商店街として、春の祭礼や盆踊りなどの地元行事にも積極的に関わり活動しています。

蔵しっくたうん商店街

「半田駅前商店街」は、半田運河沿いに続く黒板囲いの「蔵」から、「蔵しっくたうん」という名前で親しまれ、はんだ蔵のまちイベントと連携して、夏は「はんだ市民盆踊り大会」、冬はイルミネーション、「はんだ蔵のまち桃の節句」四季折々のイベントを展開しています。

